

新まちづくり計画 (H16 ~ 18) 事業総括調書

施策体系コード	1-3-1	3-3-1	事業名	「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担
担当	総務局国際部交流課 藤間 香織 211-2032			
全体計画 (当初)				
事業内容	<p>「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」は、姉妹都市であるミュンヘン市との友好関係を深め、市民の国際理解を図ること及び経済交流を促進する契機とし、地元商店街との連携を深めながら、中心市街地の活性化に資するため実施している。</p> <p>本事業では、「クリスマス市」を開催するため、本市、都心部商店街、企業、札幌国際プラザ等で設置した実行委員会に対し、本市から負担金を交付する。</p> <p>「クリスマス市」では、札幌市民及び来札した観光客に対し、ミュンヘンをはじめとしたドイツからの出店者及び地元出店者により、クリスマス用品やクリスマス用飲食物を販売するとともに、ステージイベントを展開する。出店数は約30ブース。開催場所は大通2丁目。ホワイトイルミネーションとの相乗効果を図り、11月から12月にかけて開催する。規模については平成17年度実績で来場者数40万1千人である。</p>		<p style="text-align: center;"><年度別の事業内容></p> <p>各年度において、11月から12月の開催期間中に約30ブースの店舗において物品および飲食物の販売を行う。また、ステージでの各種イベントを展開する。</p>	
	<p style="text-align: center;">平成16年度事業内容 (決算)</p> <p>全体計画の内容に加え、平成16年度にはミュンヘン及びドイツの文化を体験できる交流スペースとして新たにパピリオンを設置した。また、ドイツの環境対策を学ぶ機会として、食器洗浄機「アラエル号」を試験運転した。開催場所については当初予定のとおり、大通2丁目を会場とした。開催期間は11月20日～12月14日の25日間。出店数は30ブース。来場者数は38万1千人を数え、目標人数(38万人)を達成。</p>		<p style="text-align: center;">平成17年度事業内容 (決算)</p> <p>全体計画の内容に加え、16年度に設置したパピリオン(文化交流館)を17年度も継続して設置した。</p> <p>また17年度より環境先進国ドイツを見習い、「環境にやさしいイベント」を目指して、クリスマス市会場での紙コップ・紙皿の使用を禁止し、洗浄して再度使用できるリターナブル容器を導入した。</p> <p>また、2005年度が「日本におけるドイツ年」と定められたことから、ドイツ観光ポスター展、ドイツ環境パネル展、ドイツ・エコ住宅シンポジウムなどの併催事業を実施した。</p> <p>さらに、平日の夕方には、一般公募のステージ出演者による「ストリート・パフォーマンスステージ」の企画を実施し、より多くの市民の参加を実現した。</p> <p>会場:大通公園2丁目 開催期間:11月19日～12月11日の23日間 出店数:30ブース(うち文化交流館3ブース、食器洗浄2ブース) 来場者数:40万1千人</p>	
事業内容 (量・場所・規模等)	<p style="text-align: center;">平成18年度事業内容 (決算)</p> <p>全体計画の内容に加え、16年度より設置しているパピリオン(文化交流館)、17年度より導入したリターナブル容器の取り組み、市民参加の「ストリート・パフォーマンスステージ」を継続実施。また、18年度は、地域団体や市民とともに作り上げるイベントを目指し、地元商店街や大学、NPOなどと連携した事業や、会場運営のボランティア参加人数の増加に取り組んだ。</p> <p>さらに、ドイツ・エコライフ事業と称して、リターナブル容器の普及事業のほか、ドイツ環境パネル展、環境セミナー、ペレットストーブの実演など、ドイツ・ミュンヘンの環境保護の取り組みを紹介する事業も併せて実施した。</p> <p>開催場所:大通公園2丁目 開催期間:11月22日～12月17日の26日間 出店者数:30ブース(文化交流館4ブース、食器洗浄2ブース) 来場者数:44万6千人</p>		<p style="text-align: center;">評価(成果)</p> <p>本事業は、2002年に本市とミュンヘン市との姉妹都市提携30周年を記念して当初1回で終了する予定で開催されたイベントであるが、初冬季の観光イベントとしても人気が高く、次年度以降も継続して開催され、5回目の開催となった2006年度には44万6千人の来場者を迎えた。</p> <p>来場者アンケートでも「(イベント全体について)満足した」「来年も来たい」ともに90%を超える結果である。来場者が外国人と触れ合える貴重なイベントとして好評を博しているほか、イベント名に「ミュンヘン」の名前を使用していることが、ミュンヘンと札幌が姉妹都市であることを市民に周知することにもつながっている。</p>	
			<p style="text-align: center;">課題</p> <p>事業を効率的に実施するため、運営主体・運営方法など、今後のあり方について見直す必要がある。</p>	
19年度以降の方向性・事業の予定				
<p>本事業は、2002年の開催当初は1回で終了する予定であったが、予想以上に来場者からの支持があったため継続して開催されてきたものであり、ドイツ文化を紹介するという目的の他、初冬季札幌の観光イベントとしての重要性を増してきている。</p> <p>札幌・ミュンヘン姉妹都市提携35周年となる平成19年度については、姉妹都市ミュンヘン(及びドイツ)の文化を紹介するイベントとして実施するが、その後の開催については運営主体・運営方法などあり方を検討していきたい。</p>				

